



地域連携・貢献センター ニュースレター

Vol.2

センター発足後からの今をお伝えします

地域連携・貢献センター長 小川 喜道

この度、地域連携・貢献センターのニュースレター第2号を発行することができました。

この4月に発足した当センターは、年度当初、コロナによる緊急事態宣言により活動もままならない状況でしたが、少しずつ地域の方や外部機関との三密に配慮した打ち合わせ、あるいはzoom ミーティングなどにより始動しました。

今回のニュースレターに盛り込んだニュースは、コロナ禍にあっても、本学の地域連携に関わる諸活動が積極的に行われていることを示しています。これから一層、地域の方々との連携を大切にしながら、連携の橋渡し役を果たしていきたいと思います。

Page

Topics

- 厚木市内5大学連携メッセージを発信・・・1
- 地域課題：防災・避難所・・・2
- 地域課題：「音」・・・2
- 地域課題：「高齢化」・・・3
- 3つの包括連携協定・・・3

KAIT 研究室紹介

- 創造工学部ロボット・メカトロニクス学科
高橋勝美教授
運動機能評価研究室・・・4

Topic 1



厚木市内5大学連携メッセージを発信！



厚木市役所にてポスター発表

ニュースレター創刊号でご報告した『With コロナ期をめぐらず、元気に過ごす！ ちょっとしたコツや心構えを話し合おう』がこのような形でまとまりました。

9月のzoom ミーティングをきっかけに学生の皆さんが「つながって」、ポスターとメッセージが生まれました。同ミーティングには、本学から学友会の渡部雄太さん（ホームエレクトロニクス開発学科3年）が参加。ポスターはイラストバージョンと写真バージョンがあり、どちらも東京農大の学生さんの自作です。11月26日（木）に厚木市役所で行われたポスター発表会の様子は、『広報あつぎ』の12月1日号に記載されました。

5大学連携・協働とは…

厚木市と厚木市内にキャンパスがある5つの大学（神奈川工科大学、松蔭大学、湘北短期大学、東京工芸大学、東京農業大学）は人的、知的、物的資源の交流や活用を推進するため包括協定を結んでいます。主な活動には、各々の大学の特性を生かした「あつぎ協働大学」があります。



WITH コロナ時代の大学生へ

～厚木市内5大学学生有志からのメッセージ～

あぶない！コロナは急に止まらない

今までのガイドラインなどを覆るにはいませんか？私たち大学生は中高生に比べて行動範囲が広く、活発に行動します。そのため感染していた場合、感染症を拡大させてしまう可能性があります。経済の停滞は非常に不安ですが、学生の第一は学業です。大学の規制が一律に厳しいのは、その行動力に対してです。学生は学業だけがすべてではありません。課外活動やサークルなど、学生生活をより豊かにする第一歩は様々なルールを守ることです。もう一度自分の行動を見直しましょう。そして、気を引き締めてこの混乱を乗り越えましょう！

コロナ禍でも楽しめることを見つけよう

自宅で挑戦できる趣味として料理の腕を磨いたり、DIYで自分好みの部屋を作ったりしてみてもどうでしょうか。もちろん、もともとあった趣味を極めるのもいいと思います。学校に行けない分、家事などを通じて家族と過ごす時間が増え、絆も深まったかと思えます。カラオケやボウリングといった屋内施設で遊ぶのも楽しいですが、感染症対策を十分に行ううえで、キャンプやグランピング、釣りなどアウトドアでの活動を積極的に取り入れていくことで、少しずつではありますが生活を豊かにできると思います。

社会が変わったのなら、私たちはなにを変える？

「マスク着用」「外出自粛」「Go To トラベル・イート」など、コロナ禍での様々なマナーの変化や経済活動により、今までは異なる社会となってきています。春は外出したら嫌な視線を向けられることもありましたが、夏には経済を回すために旅行が奨励されるなど、社会は変化し続けています。ならば私たちはなにを変えていけばいいのかわ、今だからできる事、始めましょう。



2020年11月 厚木市内5大学学生有志により制作
北海道の並木道をイメージしています。



東 京 工 芸 大 学
DAIYO POLYTECHNIC
UNIVERSITY



神 奈 川 工 科 大 学
KANAGAWA INSTITUTE OF
TECHNOLOGY



松 蔭 大 学
RINSO UNIVERSITY



キャンパスの夜明け前…道のその先には…何が…

Topic 2

■地域課題：防災・避難所 ～With コロナと災害対策 ささやきが聴こえる技術～

厚木市の総合防災訓練が10月18日に実施されました。神奈川工科大学でも、厚木市の指定避難場所であることから、実際に避難会場として想定しているKAITアリーナに自治会員（コロナ対策のため参加制限あり）32名の方々をご案内しました。避難所想定会場では本学の地域連携災害ケア研究センターの取り組みや、防災拠点としての本学の機能や在り方を紹介しました。

特に、発災時の肝となる情報の収集については、日本音響学会音バリアフリー調査研究委員会の小森様（NHK放送技術研究所）、中村教授（東京工業大学）のご協力のもと、本学の地域連携災害ケア研究センターのメンバーである情報メディア学科の上田麻理准教授と上田研究室所属の卒業研究生がヒアリンググループ（磁気誘導ループ）のデモンストレーションを実施しました。ささやきがクリアに聴こえることに参加した住民の方々も驚いていました。

with コロナにおける災害対策とは、自然災害の猛威に「C（challenge、chance、communication等々）の力」や「テクノロジー」で対応するということなのでしょう。真剣勝負が求められているのが今のようです。



ヒアリンググループの案内



Topic 3

■地域課題「音」

約30年続く太鼓囃子を途切れさせたくない。伝統文化を守りたい…。そんな思いから立ち上げた太鼓同好会…。だけど静かな住宅街での太鼓の練習音は迷惑をかけているのかもしれない、受験生や療養中の方、変則勤務の方にとっては苦痛かもしれない…。

こうした悩みを科学や技術の力で解決できないか？というご相談が寄せられ、課題解決に向けて、地域連携・貢献センターでは情報メディア学科上田麻理准教授、上田研究室所属の卒業研究生と協働して、現地調査や実験、実証を継続的に行っています。おなかに響く太鼓の振動は日本人の血をたぎらせてくれますが、太鼓の音の軽減には、ゴムマットを敷いたり、遮音カーテンを活用しても限界があります。科学や技術の力を用いて、住宅地の生活音の分布調査、分析、評価を基に課題解決方法を模索しています。

Topic 4

■地域課題「高齢化」

11月4日、神奈川工科大学の近くにお住いの地域アドバイザーの皆様と厚木市の地域包括ケア推進担当課の保健師さんを本学にお招きし、「健康」「安心」「生きがい」を包括的多面的に支援するシステムと神奈川高齢者支援システム開発のための体験会が行われました。

健康状態の把握と維持するための働きかけの礎となるロコモ評価機器「健幸 ai ちゃん」ポータブルや、コミュニケーションロボットとの体操、IoTスマートハウス等を体験していただきました。参加者からは、科学と技術により、これからの老後の生活は大きく変化していくという実感や、福祉機器が完備のモデルルーム等から、「安心」「健康」に過ごすためのヒントが得られたとの声が聴かれました。



Topic 5

■包括連携協定

<愛川町 × 神奈川工科大学>

9月29日、神奈川工科大学と本学の隣町である愛川町と包括連携協定を結びました。協定には「健康」「安心」「生きがい」を支援する神奈川高齢者支援システム KSCS（神奈川工科大学研究プランディング事業）での連携や町の小中学生に「ものづくり教育」「グローバル教育」を支援することなどが盛り込まれています。昨年度は、愛川町の全小学校（6校）700名の児童に、本学の教員がプログラミング授業を行った実績があります。



<NTT 東日本 × NTTe-Sports × 神奈川工科大学>

e-スポーツ（エレクトロニック・スポーツ）とは、複数プレイヤーで対戦するビデオゲームをスポーツ・競技として捉える際の名称です。神奈川工科大学では「e-スポーツ」が単なるゲームではなく、ICTや科学を活用することでスポーツとしての価値を確立し、その研究の先駆者となっていくことを目的に「先進e-スポーツ研究センター」を発足させ、NTT 東日本やNTTe-sportsが持つ、e-スポーツ事業のノウハウ、ネットワークやITC関連の先進技術を活用し、日本のe-スポーツ業界の発展と地域活性化のために3者連携協定を締結しました。



<静岡県沼津市 × 神奈川工科大学>

神奈川工科大学の学生約5,000名のうち約12%を占めるのが静岡県出身者です。毎年11月には「キラメッセぬまづ」で高校生以下とその保護者を対象とした「科学と技術のひろば」を本学が担当したり、卒業生の就職先は静岡県内企業の割合が多いなど、何かと関係が深いのが沼津市です。そこで、教育活動での交流や人材育成、地域や産業の振興、まちづくりなどのための科学技術の利活用、沼津市に事業所がある企業への就職や定住促進などの、さらなる促進を図るため、包括連携協定を結びました。



地域連携による高齢者の健康支援 ～心身の健康データの見える化～

高齢者の健康問題と課題は、運動器障害（ロコモティブシンドローム）の予防、ひいてはフレイル（加齢によって心身が老い衰えた状態）の予防です。

Ai と IOT を活用した「地域健康診断システム」として開発された「健幸 ai ちゃん」は、「ロコモ機能の見える化」と「生きがいの見える化」が可能な評価機器です。現在、地域・組織間連携によって様々な施設に設置し、社会実装を行っています。

ー「健幸 ai ちゃん」でできることー

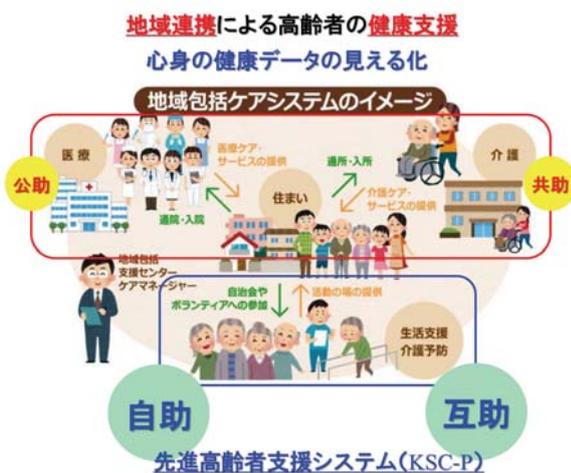


ー「健幸 ai ちゃん」を軸とした地域連携ー



心身の健康データの見える化により、高齢者の「生きがい」や、「生きていく力」に繋げ、更には、地域住民での互助・自助を目指し、医療・介護の負担を減らすことを目的としています。

ー 地域包括ケアシステムのイメージー



研究ブランディング事業では、学生に対しては、教員とともに地域課題に参加する実践的な教育を目指しています。学生は測定したデータを基に、被験者に対してデータ結果の説明や生活習慣へのアドバイス等を行っています。

神奈川工科大学
KANAGAWA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

地域連携・貢献センター

〒243-0292 神奈川県厚木市下荻野1030
TEL 046-291-3153 FAX 046-291-3262
E-mail chiki-koken@ccml.kanagawa-it.ac.jp
URL <https://cp.kanagawa-it.ac.jp/cc/>

[kait]で検索するとHPにアクセスできます。

編集後記

夕暮れの大学を取り巻く周囲の山々の凛とした美しさといったら、息をのむほどです。今年も、あっという間に年の瀬のご挨拶の時期を迎えてしまいました。新しい体験や新しい出会いのぎっしり詰まった濃い一年でした。なんといっても with コロナ!! そんななかで誕生した地域連携・貢献センターですが、おかげさまで、こうして「ニュースレター2号」を発刊できるまで歩みを進めることができました。ありがとうございました!!

幸世